

市民ネットワークの小室美枝子でございます。私は、議案第1号令和8年度野田市一般会計予算、議案第2号国民健康保険特別会計予算、議案第4号後期高齢者医療特別会計予算の3つの予算に反対し、議案第3号介護保険特別会計予算、議案第5号水道事業会計予算、議案第6号下水道事業会計予算の3つの予算に賛成する討論を行います。

新年度予算は、市税は大幅な増収となり、地方財政制度上、地方交付税はその分減額されました。固定資産税も大型物流倉庫等の建設により増額になった報告がありました。基準財政収入額が上がったということは、財政力が上がったことを意味します。令和7年度の財政力指数は暫定で0.79ですが、令和8年度当初予算の想定では0.843とのことです。また、地方消費税交付金は単純に昨年と比較すると2億3,030円の増加となりました。このように野田市の財政と市民生活をつなげて考えると、所得が上がっても手取額が上がった実感のないまま、所得税が増え、消費者としては物価が上がり、消費税負担もますます増えてしまいました。大型物流倉庫の進出により交通量は増え、近隣住民は、環境の変化を許容せざるを得ない状況が透けて見えます。財政力の影響が数字的にはっきり見える予算を前に、頑張って働いて税金等を納めても、まだ厳しい財政であるとの説明に、なんだか大きなため息が出てきます。予算は過去最大と言われた昨年をさらに上回り616億5,800万円との規模と、救いは、一般財源が伸びたということですが。評価する主なものは、土曜授業を大きく見直したこと、子育て支援の医療費助成、小学校給食費完全無償化のため、国基準との差額を市が負担すること、ごみ袋制度の見直し、介護士の人材確保に向けた新たな取組、引き続き介護支援専門員の更新に係る補助、若い世代を意識した新たな取組等々を挙げることができます。

新年度予算に主に反対する理由を述べさせていただきます。

総務費においては、行政改革による正規職員を削減し、非正規職員を増やしてきた組織としての弱体化を危惧するものです。小さい政府を目指す国の方針に沿った制度ですが、会計年度任用による働き方は将来を見据えた人生設計に苦慮し、また会計年度任用にて働く女性が多いことも問題だと思っています。個人番号制度に反対しています。大事な個人情報とのひもづけが進み、口座や健康保険証、運転免許証にも拡大されました。また、個人が所有するスマートフォンは今や公共インフラとなりつつあり、配慮が必要になってきたと感じます。

公共施設の更新や改修について、統合や廃止の判断が迫られるケースも出てくるかもしれませんが、すぐに施設を撤去するケースはほとんどないと思います。しかし、いつの間にか廃止になっていた、使えなくなっていたということのないよう、市民の財産である公共施設の在り方の進捗や現状が分かるようにしてほしいと思います。

民生費におきましては、指定管理者制度について、本来の制度のメリットが生かされているのか、またその評価についても形骸化されています。生活保護費に関連し、無料低額宿泊所の運営については以前言及しましたが、民間での状況についても確認をお願いします。ケースワーカーの人数においては、市民相談を受けるケースから、基準の 80 世帯であっても、その世帯の構成人数によっては、進級進学、就職等に該当するケースや介護保険を利用している家族など、様々な事情を勘案するととてもきめ細やかな対応を求めることは、オーバーワークであり、改めて増員を求めます。

通称こども誰でも通園制度は、その制度の名称とはほど遠く、野田市においては先行的な実施が行われておりましたが、この春からは2つの幼稚園及び1つのこども園での実施となります。これまでの一時預かりとの違いはありますが、保育士が不足している現状と現場の負担が大きくなることは明らかです。乳幼児にとっても子育てする世代にとっても配慮が求められていると考えます。

衛生費では、予防接種費用につきまして、HPVワクチン接種は被害者救済、治療が進んでおりません。各地の訴訟の進捗状況から反対いたします。清掃行政に関連して、ごみ袋の記名に反対してきましたが、今後は、見直しの方向が示されました。有料化した場合の価格が気になります。清掃工場の基幹的施設改修については、主に近隣自治会との意見交換等を積極的に行っていただきたいと思えます。

農林水産費については、昨年同様学校給食の地産地消の野菜等の品目を増やす、回数を増やす等の推進の加速をお願いします。有機農産物は、収穫量はなかなか厳しい現状ですが、堆肥の活用も含めご尽力に期待します。

土木費は、市民からの道路環境の改善要望が増えています。安全確保と安心して外に出られるために予算を使ってほしいと思えます。東京直結鉄道は、あったらいいねとは思いますが、報告にもありましたように、累積資金収支は40年で黒字化ということです。が、そんなに先の計画のリスクは非常に大きく、それでもようやく費用便益比は1.0です。この春、JRもまたこの事業と関連するつくばエクスプレスも一部値上げされました。鉄道事業で採算を上げていくことは大変厳しく、新たな鉄道誘致には懸念を感じ、市内の移動でさえも高齢化への対策に苦慮している現状もあり、反対します。

消防費では、施設の老朽化対策は、時間がかかりそうですがスピードアップが必要かと思えます。女性消防士の増加に期待します。

教育費において、土曜授業は新たな事業への移行となり、子ども未来教室がスタートします。職員の負担が減ることを期待したいと思います。私は2学期制についての検証を改めて求めます。また、平和大使の派遣については、鈴木貫太郎没後80年に当たる2028年となるのでしょうか、当初予算には計上されません

でした。給食の無償化は、保護者負担の軽減策となり、保護者の皆さんにはこれまでと同様に関心を寄せてほしいと思います。また、教育費のところで申し上げることになりますが、屋内の水泳場建設と学校の授業で行う水泳指導の連携は非常に難しい計画です。改めて申し上げますが、水泳場を管理していた指定管理者の責任は重かったはずで

す。国民健康保険特別会計については、先ほど議案第 10 号で討論いたしました。私は統一化には反対しています。市としての努力を評価し、昨年までは賛成しましたが、新年度から始まる子ども・子育て支援金給付に関する規定が入る為、今予算には反対します。

介護保険特別会計は、これまでの取組で、介護認定の期間が短縮されたことを評価します。新年度は第 9 期シルバープランの最終年度となります。昨年から財政安定化基金の借入れを計上していますが、こちらは致し方なしと考えます。昨年

から介護支援専門員（ケアマネジャー）の更新に係る研修費用の補助を行っていること、新年度は人材確保対策事業を拡充したことにより、どのような成果につながるのかを期待したいと思います。また南第 2 高齢者何でも相談室が再開できたことはよかったです。

後期高齢者医療特別会計は、制度自体に反対です。当初から都道府県単位で設置されている広域連合が保険者となっています。このような予算審査しかできない理由は広域化であるがゆえ、野田市の実情が見えにくいことが課題です。また、保険料は特別徴収で年金からの天引きです。1割、2割、3割の窓口負担は、世帯所得で決まります。昨年 9 月末に 2 割負担の配慮措置が終了しました。高齢者の医療費が大きく伸びている現状であることは承知しています。しかし、最近知人が言った言葉は、今の医療制度のねじれを指摘しているようです。施設に入っているご家族に対して、施設側から検診によって治療した方がよいとの指摘で、また別のお医者さんにかかり薬が増えましたとのこと。知人は、高齢者がいい餌食になっていると表現しました。医療費が伸びる問題と併せて、命と健康を守る医療の改革が求められています。

水道事業については、衛生費で北千葉広域水道企業団出資金が計上されました。今回は消費税分等を一括で 883 万円の計上でしたが、八ッ場ダムとは異なり建設費用等は求められないと思っていました。今後は 20 年にわたり出資していくとのこと。どのような内容であるかを注視していきたいです。

下水道事業については、今年 4 月からの引上げは、避けられないと考え賛成しました。今年度は、ウオーター P P P に関わる調査も実施していくとしています。コンセッション方式に移行する前段階でのウオーター P P P に向けた動きには、約 1 年をかけて行うとしていますが、注視してまいります。以上の理由で、議案第 1 号令和 8 年度一般会計予算、議案第 2 号国民健康保険特別会計、議案第 4 号

後期高齢者医療特別会計予算の3つの予算に反対し、議案第3号介護保険特別会計予算、議案第5号水道事業会計予算、議案第6号下水道事業会計予算の3つの予算に賛成する討論といたします。